

## 病害虫発生予察注意報第3号

病害虫名：果樹共通害虫のナミハダニ

1 発生予想 りんご、なし、ももでナミハダニの発生が急増し、多発する恐れがある。

2 対象地域 県下全域

### 3 根拠

(1) 一般管理（慣行栽培）している巡回調査ほ場の7月下旬の調査で、りんごの32ほ場のうち26ほ場で10葉当たり平均寄生虫数が7月上旬調査数値よりも増加し、平年と比べかなり多くなった（図1）。また、平均寄生虫数が多発※した調査地点は8地点に増加した（表1）。

今後、なし、ももでも、りんごと同様に多発することが懸念される。

(2) ナミハダニの影響によって、りんごでは葉裏の褐変症状がみられている（図2、図3）。

(3) 気象庁における「向こう1か月の天候の見通し（令和4年7月28日発表）」によると、関東甲信地方は7月30日から8月29日にかけて、暖かい空気に覆われやすいため、気温が高い見込みであると予想されている。

今後も気温が高く、ナミハダニの活動や増殖に好適な状況が継続すると発生が増加し、果樹に被害が発生する恐れがあると推測される。

※多発とは、10葉当たり100頭以上の寄生が確認されたほ場をさす。

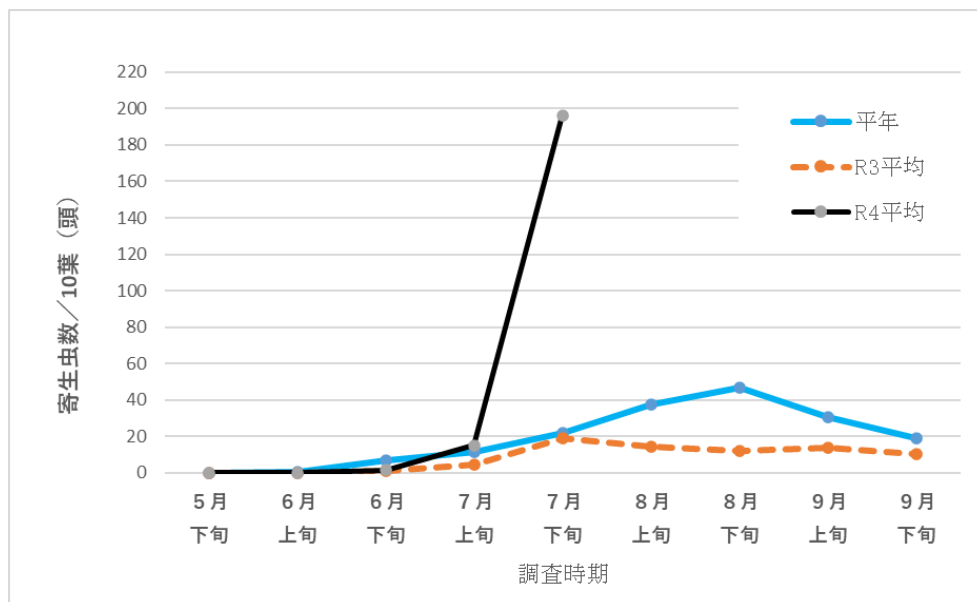


図1 りんごのナミハダニの10葉当たり寄生虫数（頭）  
（慣行栽培を行う県下32巡回調査地点の平均）

※長野県病害虫防除所調べ

※平年は2012年から2021年までの平均値

表1 巡回調査によりナミハダニが多発したりんごの調査地点数

時期	調査地点数	7月上旬	7月下旬
令和4年度	32	2	8
令和3年度	32	1	2

※多発とは、10葉当たり100頭以上の寄生が確認されたほ場をさす。



図2 ナミハダニ（雌成虫）  
（長野県農業技術課 提供）



図3 ナミハダニによるりんごの葉裏の褐変症状

#### 4 防除対策と留意点

- (1) 高温乾燥の状況下では、ナミハダニは短期間に増殖し多発状態になるので、園内の発生状況に注意し、密度が増加する前に「県防除基準」を参照し、殺ダニ剤を散布する。
- (2) 同一系統・同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- (3) 殺ダニ剤散布時には、樹幹内部にまで薬剤がよくかかるように丁寧に散布する。
- (4) ボルドー液等は、殺ダニ剤の効果を低下させるので注意する。
- (5) 農薬の使用にあたっては、使用時期（収穫前日数）や使用回数等の登録内容を遵守する。

長野県病虫害防除所  
 鈴木 正幸（所長）  
 北澤 修司（東北信担当） 柳澤 和也（中南信担当）  
 （東北信）TEL：026-248-6471  
 E-mail：bojo@pref.nagano.lg.jp  
 （中南信）TEL：0263-53-5642  
 E-mail：bojo-y@pref.nagano.lg.jp